



健康な裸色妹が
集結するまで

基本CG 8 枚

本編 83 ページ

総枚数 221 ページ

Presented by ふうりん亭

それじゃ、お兄ちゃん
ちよつと出かけてくるね

ミユキちゃん
買った物いっつもさるのね





もう、お兄ちゃんってば
街で頼まれたクエストだよ！

あーパーティに誘われたんだっけ？
一人で大丈夫か？
僕もついて行くっけ？

ウイータもついでるから大丈夫——
それより私がない間
お兄ちゃんの方が心配だよ

あーはいはい
掃除も洗濯もちゃんとやるから
安心していつて来い

あと勉強もね？
カティア様やみんなに迷惑かけちゃダメだよ？

だからわかってるって…



それじゃあ行ってきます！
がんばってね！ お兄ちゃん！

頑張るのはミレイユだろー
気を付けて行ってくるんだぞ





そんな何気ないやり取りを最後に——ミレイユは姿を消した

今思えば——見知らぬ冒険者のパーティーに妹を一人で送り出す「下を
もつと警戒するべきだったのかもしれない」
あの時強引にでも引き止めるべきだったのかもしれない

どう考えても過保護だけど

僕だっというも「ミレイ」に過保護にされて笑われてるんだから
それくらいしても良かったはずなんだ

そいつは「下を」——

何の手がかりもないまま一月が過ぎたころ――

見知らぬ人物から僕の下に三つの『記録のルーン』が届いた

これは持ち主の見たものを映像として記録しておける貴重なルーンだ
嫌な予感がする――

それでも僕は何かの手がかりになることを期待して

『記録のルーン』に魔力を込めた――

記録始めます
それじゃあメイユちゃん
これお兄ちゃんに送るから挨拶して

あ……あ……やだ……
み……みないで……

はい！ 注文通りの怯えた反応
ありがとメイユちゃん！

はッー
感謝しろよ？ 大好きな兄貴に
見せてやろうと思っただけでわざわざルーンを
仕入れたんだぜ？

えー多分お兄ちゃんは状況をのみ込めてないと思うからね
少し説明してあげようか

そこに映っていたモノ、男の台詞がすべてには理解できない――

ミレイは衣服をはぎとられ、四肢を拘束されて檻に入れられていた
周りには数人の男がいるらしい
その中の一人が僕に向けて説明を始めた

自分たちが人身売買組織であること――

あのクエストが初めからミレイの身に闇が掛けた懸賞金を
狙って計画されたものであること――

魔物に追い詰められた多岐をこのクエストに任せ、後ろからたまたま討ちましたこと
そのことをあなたも知ることになるのだ――

「やめる――」

はい
それじゃあミレイユちゃんの処女
ボクが最初に頂きますー♡

ひん…あ…ん…や…ん…
い…いやです…ん…
なんで…「ん…な…ん…

元気いっぱいいいねー♡

これが飛行島に届くには一月くらいかかるからねー
元気な初体験をお兄ちゃんに見せないとね♡

あう…あ…なんで…ち、力…入らな…っ
そんな…大きいの…む…むりです…ッ！

お前には一度痛い目見せられてるからな
その鎖には魔力の吸収と混乱のルーンを刻んである
「自慢の魔法も不死鳥とのコミュニケーションもムリだぜ

うそ…ウィータあ…ん…「たえて…
う…あ…おにいちゃん…ん…たすけー

ひびきたる……ふん……くも……ふん
い……うだ……ふん……痛い……ふん……

うわ……レイちゃんおまん「キキ」……
まあまだ十〇歳だもんね
もっと力抜かないと裂けちゃうぞ♡

ふ……ん……ふ……ん……お、大き……むり……
おねが……ん……ほんとに……裂けちゃ……ん

オマエの全部入ったらへそまで行っちゃうからな(笑)
俺らが使う前に壊すんじゃねえぞ

分かってる分かってる♡
それじゃあミレイユちゃんそろそろ
思いつきり入れるからね♡

あ……あ……ん……
あ……ん……ちめ……ん……

いっ……め……いっ……な……
く……く……く……いっ……な……
く……く……く……いっ……の……

「これすっ」——未熟なマンコを無理やり
「で」開けている感が最高だ♡
チンコを挿れたいわんぱくだった♡

あ……いっ……いっ……いっ……いっ……
あ……いっ……いっ……いっ……いっ……
あ……いっ……いっ……いっ……いっ……

でもさすがに全部は入らないなあ♡
ふる——いずれは僕のを全部呑み込めるよう
じっくり調教しないとね

いっ……いっ……いっ……いっ……
いっ……いっ……いっ……いっ……
いっ……いっ……いっ……いっ……

ツあ…が…ツツ…あツ…ツ…？
は…はげし…う…かないれ…ツ！
か…からだ…ツさけちや…ツ！

ミレイちゃん…膣内に出すからね♡

あ…ちあ…ジ…なかは…ちめえ…ツ！
あかちゃん…できちや…ツ！

ふふ、お兄ちゃんに見せてあげようね
ママになっちゃう♡

…ビビ…おま…と…お…





熱ッ... ああ... ああ... ジッ... ジッ... ジッ... っ... っ...

アッ

アッ
アッ
アッ
アッ

あまね

まあいいや
次は俺がたつぷり使ってやるから
覚悟しとけ

あ……あ……あ……あ……あ……あ……

ははッ——いい表情するじゃねエか！
お前から兄妹は覚えてねえだろうがな……
俺はお前らに一度組織をつぶされてんだ

ガキ孕ませるくらいで済むと思っくんじゃねーぞ
穴も頭もぐちゃぐちゃになるまで遊んでやるよ

うん

俺たちに楯突いた「」とをルーンの回「」で後悔しろよ
——お兄ちゃん
妹がぶっ壊されんのおとなしく見てやがれ

ア……がく



その後も男たちは代わる代わるミレイユを犯していった
まるで奴隷か物のように扱われながら、不意に僕を呼ぶ妹を
ただ見ているようにしかできなかつた

ザン...ン...ザン...ン...かお...

あーやったやった...
今日はもうでねえわー...

ミレイユちゃんもすっかりザーマンまみれになっちゃったね♡
さっとお兄ちゃんも大人になったミレイユちゃんを見て
喜んでくれるよ♡

しっかしまあー薄情な兄貴だなミレイユちゃんよ
妹がこんなになるまで犯されてんのに
多分アイツ気づいてもいないぜ？

ズン
ズン
ズン

ズン
ズン
ズン

…ッ…おにいちゃんを…ッ…
…ぱかに…しないで…ッ

おーすげえすげえ
こんだけやられてまだ折れてねえのか
すげえ睨んでやがる
処女ぶち抜かれてあれだけ泣き叫んでたくせによ

…ッ…誰が…ッ…そんな
あなたたちなんか…みんながすくに…ッ

なんだ？
まさか俺たちを脅してんのか？
かわいいねえ—

ほら…レイユちゃん僕らの目が喜れるまでエッチした
感想お兄ちゃんに伝えてあげなよ♡

お…おにいちゃ…心配…しないで…
すぐ…かえるから…ッ

はッ—こいつは賤け甲斐があるぜ
まこの映像がお兄ちゃんに届くころには
手遅れになってるだろうがな

ふんっ

ふんっ

『オマエに対して要求はない——ただそこで見てる
大事な妹が俺らの玩具になるところをな』

男の声とともに映像はそこで終わっていた——しかしまだ手元には二つの
『記録のルーン』がある

そこにどんな映像が記録されているのか予想が付いてしまっ

『インツらを——殺す
今すぐルーンを全て焼き払いたくなる

でもだめだ
やっと見つけたミレイユへの唯一の手がかりを消すわけにはいかない
僕を信じてくれたミレイユを助けるんだ——

——見るしかない

…ん…ん…ん…
…ん…ん…ん…ん…ん…ん…

うみみ♡
声が漏れてるよミミレイちゃん♡
気持ちよくなってきちゃったかな？

…ん…ん…ん…ん…ん…ん…
気持ち…ん…悪いだけです…ん

コイツは被験者がすぐ廃人になって使い物にならねえって
廃棄された拷問用の試作品だ
オマエみたいなガキがどこまで耐えられるか見ものだぜ

ぜつたい…たえて…ツツ
…みんなの…ん…ん…ん…

まだそんな「ん」言ってるんのか
オマエはもう俺らの玩具だったのがわかんねえのか？
おい、濃度をもう少し上げろ

はいはい♡

ひんひん……ん……ん……ん……♡
 ……は……な……なんれ……♡
 ……「……ん……ん……ん……♡」

お……は……な……ん……ん……♡
 ……ん……ん……ん……♡

お……は……な……ん……ん……♡
 ……ん……ん……ん……♡

す……く……気持ち……いで……し……よ……？
 その『椅子』の……体……液……には……お……薬……が……た……く……さ……ん……入……つ……て……る……か……ら……ね……♡

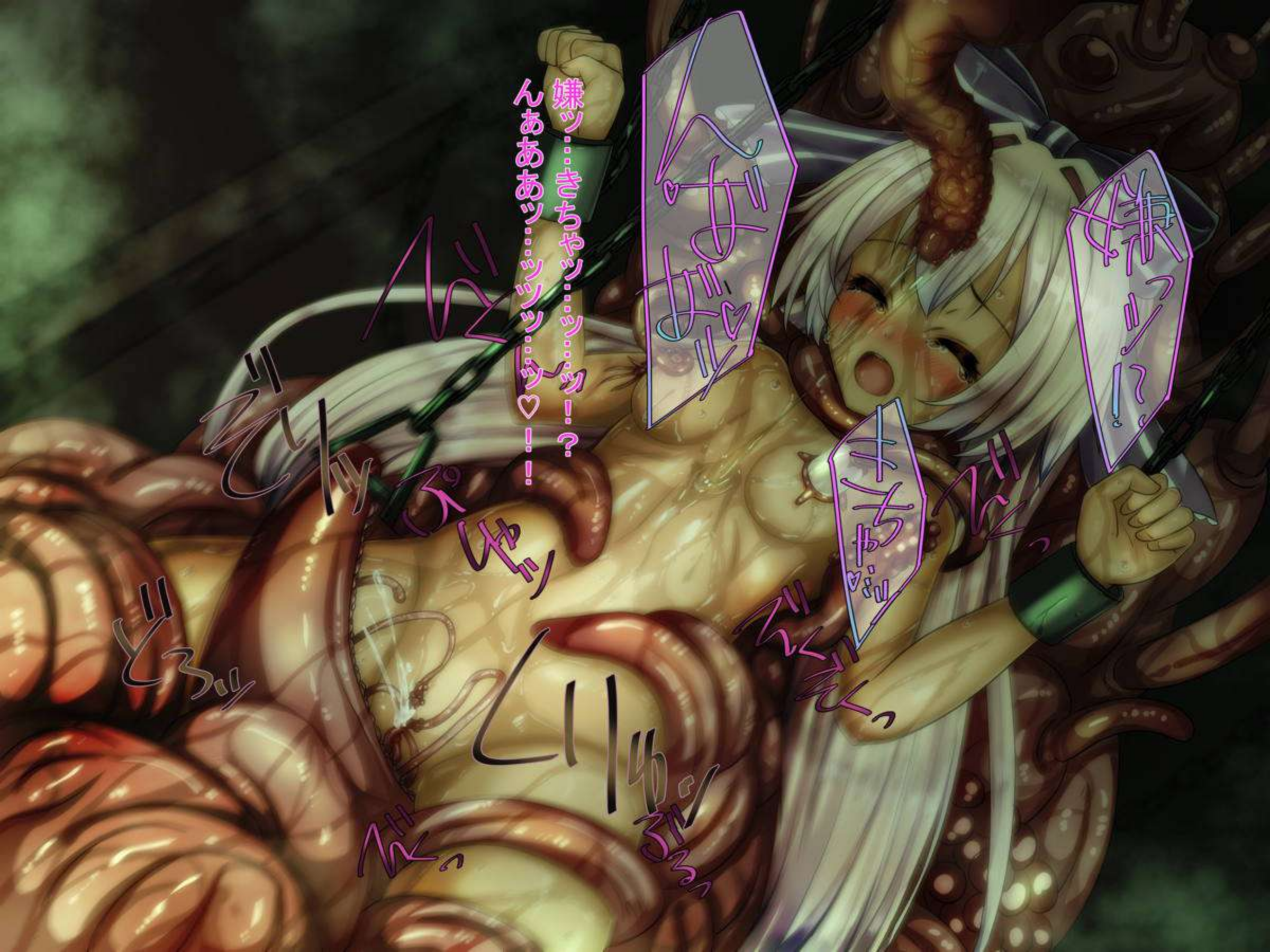
……ん……く……す……ら……ん……ん……♡
 ……そ……ん……な……き……ま……ら……た……な……ん……♡

しかも……毒……の……効……き……に……く……い……お……前……の……た……め……の……特……別……性……だ……せ……？
 ……普……通……の……人……間……な……ら……即……死……す……る……濃……度……の……モ……ン……を……仕……入……れ……た……ん……だ……
 ……感……謝……し……ろ……よ……

腰……が……動……い……て……き……た……わ……♡
 ……そ……ろ……そ……ろ……イ……キ……そ……つ……か……な……？

は……ん……ん……ん……♡
 ……ん……ん……ん……♡
 ……ん……ん……ん……♡
 ……ん……ん……ん……♡





嫌ッ...きちおシン...シン...シン...シン...
んあああッ...シンシンシンシン...♡...♡...♡

おんおんおんおん
おんおんおんおん
おんおんおんおん

おんおんおんおん
おんおんおんおん
おんおんおんおん

おんおんおんおん
おんおんおんおん
おんおんおんおん

おんおんおんおん
おんおんおんおん
おんおんおんおん

おんおんおんおん
おんおんおんおん
おんおんおんおん

おんおんおんおん
おんおんおんおん
おんおんおんおん

おんおんおんおん
おんおんおんおん
おんおんおんおん

ひん…ひん…♡
…あ…は…♡
わ…わたし…♡

ガキのくせに…ちよまに潮吹いてやがる笑
お兄ちゃん見てるか？
オマエの妹は触手にクリ弄られて初イキする変態だぜ？

あ…は…♡
い…や…み…みないれ…みないれ…♡
お…お…♡

ズル…
我優してたのもあるだろうけどすごいイキ方だったね♡
実はミレイユちゃんもとすごいエッチなんじゃない？
お兄ちゃんでおナニーとかしてたのかな？♡

そん…そんな…♡
わたし…えつちじや…へんたいじや…♡

あ...?

っ！か何休んでんだ
本番はこっからだぞ

おっ...おっ...おっ...
おっ...おっ...おっ...
おっ...おっ...おっ...

おっ...おっ...おっ...

そんなのはいる...わけ...ッ！
し...しんじやい...ます...ッ！

大丈夫だよ♡

ミレイユちゃんの腕より太いから最初は痛いだろうけど
お薬もまた濃くしたから朝にはイキつはなしてあげる♡

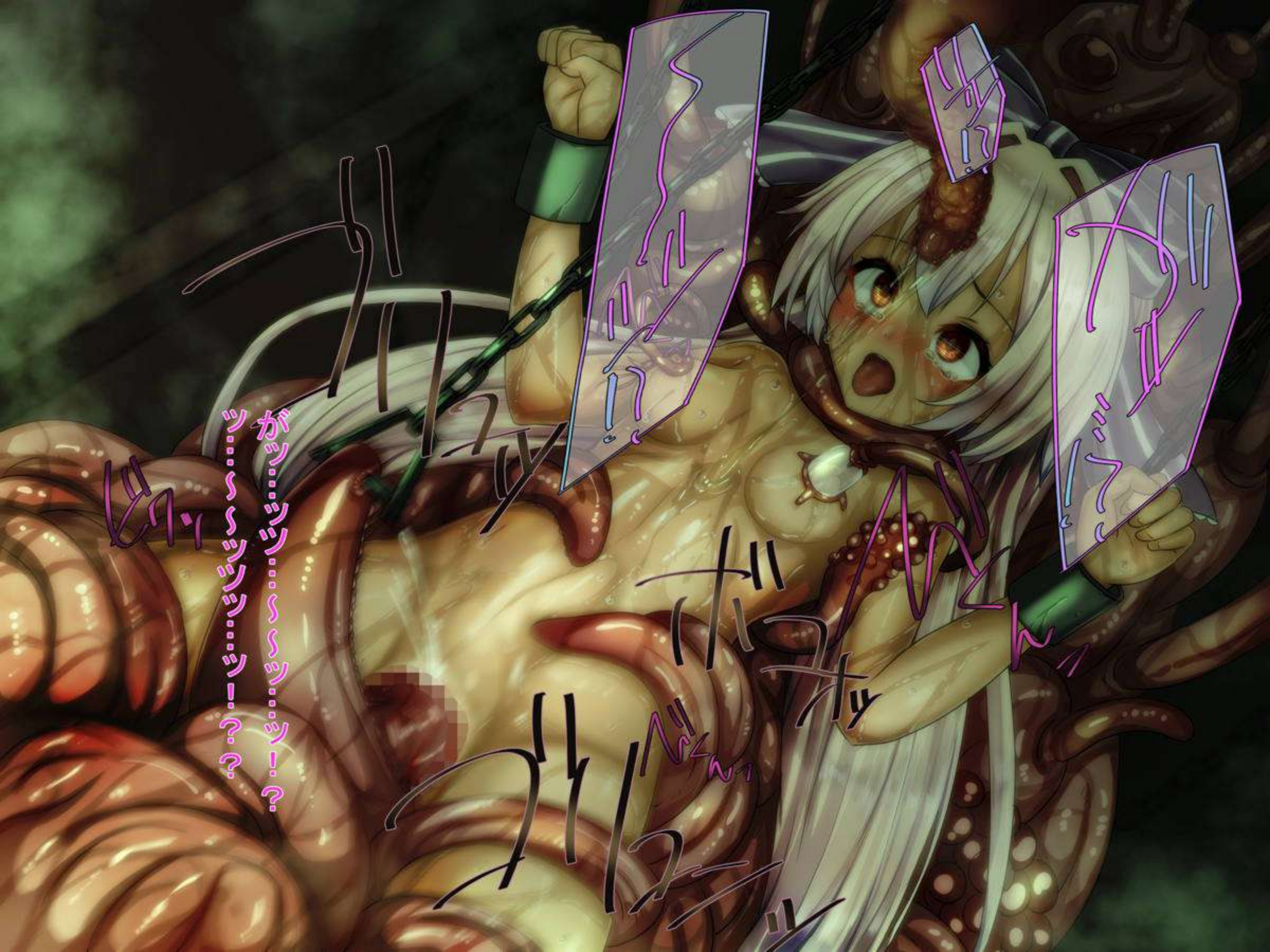
突っ込んだだけでぐっ壊れんなよ
つまねえからな

おっ...おっ...おっ...
おっ...おっ...おっ...

おっ...

おっ...





が.....
.....

...

...

...

...

...

うーわ、えっぐ…
調整ミスってねえか？
完全に触手の形に腹膨らんでんじゃねえか
まして肉蔵つぶれて死ぬんじゃねえの(笑)？

フェニックスとの合成人間だし
これくらいなら死なないんじゃないかな？
朝まで放置したらさすがにわかんないけど♡

てかまた血でっけけど
まさか腹も再生してんのか？
だったら無限に遊べんじゃねえか？

が…は…は…は…は…は…
し…し…し…し…し…

は…は…は…は…は…
し…し…し…し…し…

ん…ん…ん…ん…ん…
ん…ん…ん…ん…ん…

は…は…は…は…は…

ん…ん…ん…ん…ん…

は…は…は…は…は…

は…は…は…は…は…



ながッ…シッシッ…シッ…
で…シッシッ…シッ…?

あッ…シッシッ…シッ…
はっあッあッあッあッ…シッシッ…シッ…

あッ…シッシッ…シッ…
はっあッあッあッあッ…シッシッ…シッ…

ズッ
ズッ
ズッ

ズッ
ズッ
ズッ

ズッ
ズッ
ズッ

ズッ
ズッ
ズッ

ズッ
ズッ
ズッ

ふふ♡ お兄ちゃんの前で
自白してイッちゃったねえ♡
ボクは好きだよ♡

あ...あ...は...♡
あ...こんな...いやあ...

俺なら妹がこんな下品な
イキ顔晒してる時点で縁切るぜ
大好きなお兄ちゃんもお前のこと
もう嫌いになったんじゃないか？

あッ...そんなッ...わたし...
お兄ちゃんに...嫌われ...ッ...

確かに結局誰も助けに来ないもんね♡
もう見捨てられちゃったのかもね

かもな(笑)
まあもう申古だしな♡
こんなきたねえ便器なんてだれが取り戻しに来るんだよ？

あ...わたし...
あ...わたし...
あ...わたし...

たくめんどくせえな——
てめえ今日からまたあの『椅子』で
眠りてえのか？

うんうん

……ひ……し……ん……あ……ん……し……ん……
ッ……あ……ッ……わたし……

眠るってお前——
ありやあただの気絶だろ…(笑)

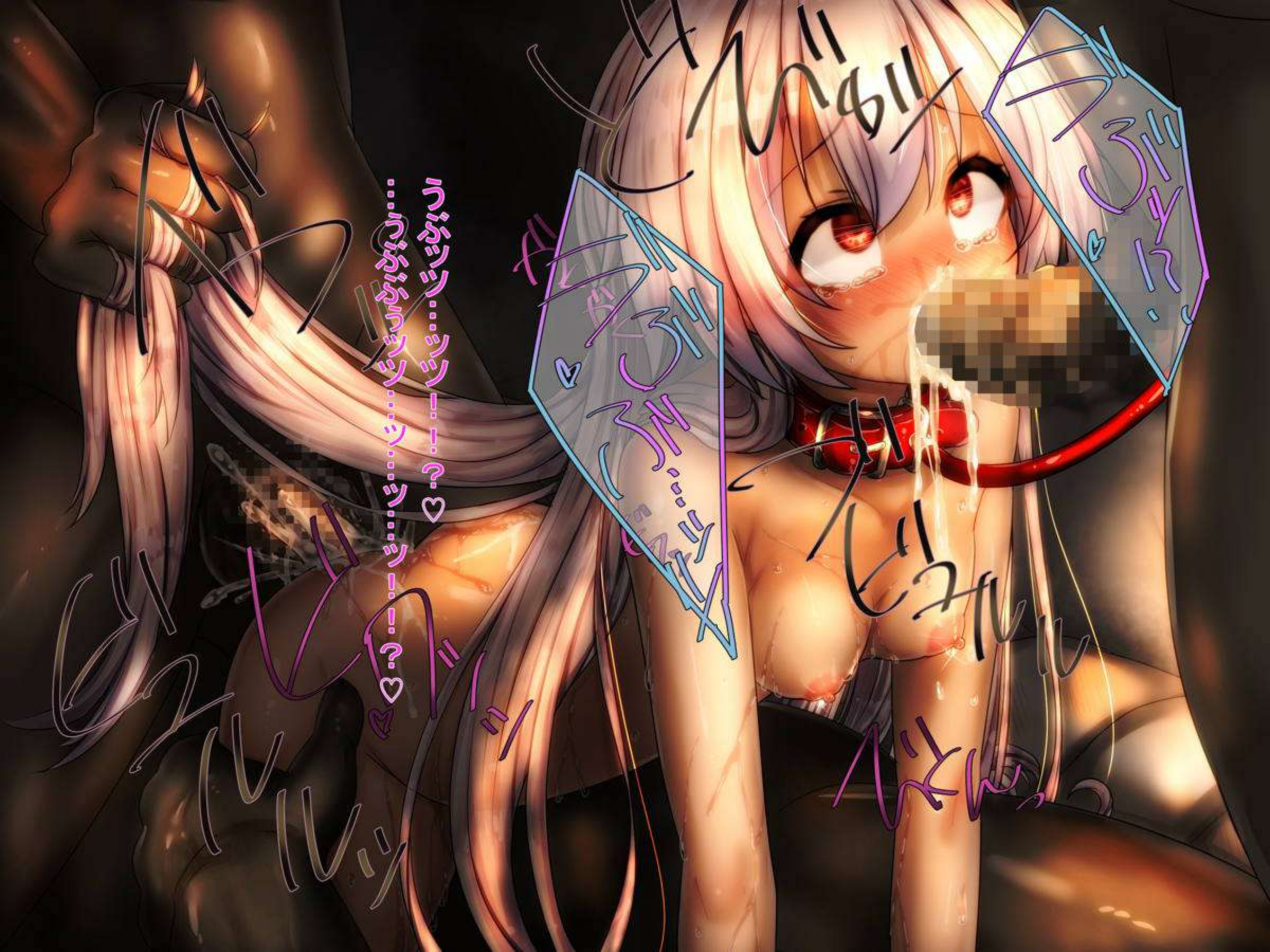
うんうん

それだけじゃねえぞ？
なんだ？ 豚にでも犯されてえのか？
それとも馬か？ 蟲か？
人間様が犯してやってるだけ寄せだと思えよ雌犬が

うんうん
うんうん
うんうん
うんうん
うんうん

あーあもつたいない
いきなりそんなに脅したら
可哀そうだよ♡

わかつたらあんなに暴任してよ



Handwritten purple scribbles and symbols, including a heart and a double equals sign, arranged vertically on the left side of the image.

A large, hand-drawn blue-outlined box containing purple and blue scribbles, located on the left side of the girl's face.

A large, hand-drawn blue-outlined box containing purple and blue scribbles, located on the right side of the girl's face.

Black handwritten scribbles at the top of the image, above the girl's head.

Black handwritten scribbles on the girl's chest area.

Purple handwritten scribbles on the girl's right arm.

げほん
げほん
げほん

げほん...げほん...げほん...
げほん...げほん...げほん...
げほん...げほん...げほん...

げほん
げほん
げほん

げほん
げほん
げほん

ちんぽうしてるやばから
全部吐きやがって

げほん...ま...これ...くら...
...も...一回...げほん...ま...
だから...
げほん

よっほああの「椅子」嫌なんだね♡
まあもう一回チャンスあげなよ♡
せっかくこんなにおねだりしてるんだから♡

しやあねえな

げほん

げほん

げほん

げほん

全ての映像を見終わって——その場に尻餅を付いた

怒りも憎しみももう湧いてこない——
ただ信じられなかった——あのしっかり者の妹が——

——ずっと一緒に過ごしてきた家族が家畜のように扱われる光景が

手が震える——

ミレイユがあんなになるまで助けられなかったのは僕だ
だから遅すぎるけど——助けるんだ
もう一刻の猶予もない——


アイツらは人身売買を生業にしている
ミレイユに懸賞金が掛かっているのはアイツがフェイクスとの合成体だからだ
もし売られてしまえばまた昔のように人体実験のモルモットにされてしまったらう

そうなる前に助け出すんだ
飛行鳥のみんなの力を借りればきっと、見つけられる——

しかし思うようにはいかなかった

『記録のルーン』からも奴らの足跡は辿れず――

結局何一つ手がかりが無いままさらにも一月が過ぎた頃
再び僕の下に『記録のルーン』が届けられた――



ルーンと記録されたミノユはまた売られてはいないよだった
だが――

「なんで……」

男の首を回し、しごみついで言葉をからませ――
――明もかゝ自分から望んで男を抱かれていた

「じ――やめる」

そゝとちよつと息が付いた――僕は、間に合わなかったのだと

くはあ

ふはあ……♡ なんれえ……♡
おまん……も……やめるの……♡

なんれえ……♡

うふふ♡ 今日は久しぶりにミレイユのお兄さんに
送る映像を撮ってるからね♡
ちゃんとあいさつしないと♡

ちゅぽっ

ん

ええん……♡ ……ちゅぽっ……♡
……まら……いっとなら……♡
「しゅんしゃまあ……♡」

ミレイユが離してくれないから
「のまままで」めんね？
ミレイユのお兄さん♡

あれからみんなミレイユをさっさと売れっというんだけど——
ボクは「の子気に行っちゃったからお嫁さんにする」にしました♡
だから今日は結婚の挨拶としてお兄さんに「これを送ったんだよね♡

ん

ん

ん

ん

そなたがレズニユ♡

お兄さんに僕らがラブラブなのよ! 見せてあげよう♡

なまめ..♡
いあな..♡
グリグリ..♡
おんおん..♡
♡♡♡♡♡

最近はずっと「直腸」に
嵌ってるんだもんね♡

♡
♡
♡
♡
♡
♡

ニヤニヤ主人様より先に
いったらダメだらうか♡
くしもみかんにおはなす♡

んんん

あーん...♡

あーん...♡

あーん...♡

あーん...♡

あーん...♡

わかったわかった
それじゃあ今回じゃあ

あーん...♡



おっ
おっ
おっ

おっ
おっ
おっ

おっ
おっ
おっ

おっ
おっ
おっ

おっ
おっ
おっ

——
今日はすい締め付けたね
もしかしてお兄さんに見られて興奮してる？

おっ
おっ
おっ

おっ
おっ
おっ



.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

あんじゅ……あ……うっめん……♡
……あ……あ……♡

——たぐまた朝までヤッてたのかよ
豚みて——な喘ぎ声がつるさへてて起きさうまったよ

つかなんだその腹——ザーメンで膨らんでんのか？
どんだけ出してんだよ

だ……ミレイユちゃんが離してくれなかったんだもん♡

——そいつの買い手が見つかったぞ
今度のは上客だ
いい加減そいつ金にすんぞ

え——まあしょうがないか……
「めんお兄さん、ミレイユちゃん幸せにできなくなっちゃった♡
せめて僕の子共孕んでるよ……いなあ……
離れても愛してるからね♡

んんん

んんん♡

んんん♡
んんん♡

んんん♡
んんん♡



そうして「ミレイ」は「J」がくと売られていった――

僕はあの、売られる直前の幸せそうだった「ミレイ」の映像を
他の誰にも――カティア様にも見えられなかった

探そうとしても犯されている「ミレイ」の笑顔が邪魔する――

手がかりも途切れた

送られてきていた「L」もあれから届かない

もう僕にはどうしようもなかった

たった一人の妹すら見つけれないくらい、この世界は広すぎるんだ

あきらめかけていた時――僕の下に新たな「L」が届いた

ミレイユをお買い上げいただき
ありがとうございます……♡
ご主人様……♡……♡

来てくれてありがとう
いきなりでびっくりしたがる？
キミを持っていた彼らは僕の知り合いでね
無理いって君を売ってもらったんだ

聞いてます！
前のご主人様と結婚できなかったのは
残念ですけど……そのかわりご主人様が
ミレイユを一杯愛してくれるって……♡

あふ——
そうだね……愛してあげるよ



ミレイユはやっぱり笑顔だった——
乳首と性器にピアスを開けられ、下品な服を着せられ
売られた——なのに——喜んでいる

しかしそれを悲しんでいる暇はない
これは貴重な手掛かりなんだ——

幸いこの男は研究者ではなくただの好事家のような
研究機関以上の金と『記録のルーン』での記録を条件にミレイユを買ったらしい

それならまだ連れ戻せる可能性がある——

フエツクスのワイータさえ無事ならまだ
体も心も元に戻る可能性がある——

ところで話では聞いてるんだけど
君は本当にフェニックスとの合成人間で
強力な再生力があるのかい？

そうですね！
フェニックスのウィータが私の体を治してくれています！
だから処女膜だってありますし、
おマンコもキツくて気持ちいいですよ♡
お気に召さなければピアス穴だってふさがります！

へえ——すごいね
ちよつと試してみてもいいかな？

はいミレイユの体はもうご主人様の
ものですのよ♡
「自由」っていいわ♡

それじゃ——
これを付けてくれる？



Handwritten scribbles in pink and blue on a black background, located on the left side of the character's face.

Handwritten scribbles in pink and blue on a black background, located on the right side of the character's face.

Handwritten scribbles in pink and blue on a black background, located on the character's chest.

Vertical handwritten scribbles in pink, including a heart symbol, located on the right side of the character's torso.

Handwritten scribbles in pink and black, located on the character's midsection.

Handwritten scribbles in pink and black, located on the character's left leg.

Handwritten scribbles in pink and black, located on the character's right leg.

Handwritten scribbles in green and black, located in the upper right corner of the image.

Handwritten scribbles in green and black, located in the lower left corner of the image.

Handwritten scribbles in green and black, located in the lower center of the image.

「ら、おもらしなんて
ダメじゃないか

お…♡ おう…♡
んむっ♡ うっ♡ …♡

ん

どうだい？
本物の鞭のお仕置きは？
玩具と違って死ぬほど痛いだらう？

ん…♡ ん…♡ ん…♡
ん…♡ ん…♡ ん…♡

ん…♡ ん…♡ ん…♡

気絶しないだけでもすごいのに
甘い声出しちゃって…
君はもう完全に快楽中毒だな…

ん…♡ ん…♡ ん…♡

ん…♡ ん…♡ ん…♡

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡
あ……い……だ……れ……す……♡
♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

おっ？ でも——
す……い……い……！

あの傷でもこんな瞬間にふさがるんだね

あ……♡ いきなり……♡
こんなあ……♡♡♡

口では言うけど
軽くイッてるじゃないか君

あ……だ……♡ だ……♡
からだがあ……♡♡♡♡♡

もしかして君の体の不死鳥が
苦痛を快楽に変換して君の心を守ってるのかもね
健気ない子だね
これならかなりの無茶がきまってるだ



あ……♡

♡♡♡♡♡♡♡

ひん…ひん…あ…ひん…?
な…なに…ひん…ひん…?

あぁ、さすがにこれには嫌な顔をするんだね
実は僕——こういふ蟲を育てるのが趣味なんだ

あ…ひん…え…ひん…?

ふふ——君を買ってよかったよ
普通の子だと苗床にしてもすぐ死んじゃうからね

あえ…え…ひん…?
や…そんなの…ひん

大丈夫だよ
君くらい淫乱ならすぐにこの子たちとの
交尾も楽しめるようになるよ

んあッ……ッ……ッ……♡
はうあああああッ……ッ……♡

こっちは足を閉じちやダメ
また鞭打たれたいの？

あきッ……ッ……♡
きもちわる……は……♡
あきッ……ッ……♡
きもちわる……は……♡

心では嫌がっても体はもう馴染んできたかな？
気持ちよきそうに見えるよっ。
ふふ——「これはいい苗床が造れそうだ——」

ミレイユを購入した男がただの好事家という印象は
間違이었다――

いままでミレイユを捕えていた連中は
売り物のミレイユの価値が下がるような
致命的な痛めつけ方はしなかった――

だがあの男は違う
きつとアイツはミレイユを容赦なく殺して蟲の餌にする

本当に時間がない――
男の屋敷は仲間たちの協力で突き止めた
今度こそミレイユを取り返しに行く――

――そんな僕の下に最後の『記録のルーン』が届けられた

ぐんぐん……じんじん……めめ……じんじん……
やめ……たすけ……じん……じん……

あ？ なんかおかしくねえか？
アంతの蟲……こんだけ孕んで
なんでまだゴイツ意識あんだ？

面白いだろ？
だから君を招いたんだよ
これを見てほしくてね

なんか売った時より反応もまともになってるぜ？
体はひでえもんだがな

……
実はね——何回か連続で休ませずに
蟲を産ませ続けていたらさすがに死んでしまっ
ても——リリースというのかな？
ほぅ……おいたち生き返っていたんだ
そしたら精神も少し元に戻っていたね

んや……じん……く……じん……じん……
なんれ……こんな……お……い……ち……や……ん

それを何回か繰り返してみただ
そしたら生き返るたびに精神がより過去に戻っていったのさ
走馬灯みたいな物かな？ 面白いだろ？

んや……じん……く……じん……じん……

んや……じん……く……じん……じん……

絶句する――

「アリスは――アリスはアリスを何度も殺して
そのたびに生かすのをアリスの反感を買い込んでる――
アリスはアリスでも――アリスのアリスは無限じゃない

「そんな」と続けられたら――いずれ

いあすんじんじん... うまれんじん... ？？？

しかも「の子は今
自分の体に何が宿っているのかも知らないんだ
これくらいまともな精神で僕の蟲を産んだ
時の反応は見ものだよ

うまれんじん

うまれんじん

ははー...うっわ
これはエグイぜ...さすがに同情するわ
普通に死ねた方がましだったな...

が...んじんじん...
んじんじん...んじんじん...
んじんじん...んじんじん...

んじんじん

んじん

あ.....え.....ん.....ん.....
.....あ.....ん.....ん.....
.....あ.....ん.....ん.....

完全に放心してんしゃねエが
自分が蟲を産んだ」と理解できてねエぞコレ

だろっね
でもすぐに理解するよ
まだまだ虫産は「れからだからね

な.....ん.....ん.....れ.....



いやあ………
……ちあああああ………
……なんで……わたし……
……
……

ほらー状況を理解したみたいだよ
今回は精神崩壊で死ぬことはなかったみたいだね

お乳………すわらないで………
……あッ……お腹うごいて……なんで……
……産みたくない………

「リヤあ」の頭の中は俺らに拉致された
直後くらいか？
哀れなもんだ……

……

……

……

らめえしゅ…しゅ…！　らめえしゅ…しゅ…！
そ…「舞っちゃん…しゅ…なの…か…さ…ちやんしゅ…」…

はは…見なよ！…これ面白いだろ？
精神は元に戻っても体はほんとに前の状態の
体を蟲が這いまわるだけでイキまくるんだ

おんぱんぱんぱんぱんぱんぱんぱんぱんぱんぱんぱんぱん

らめえしゅ…しゅ…！　らめえしゅ…しゅ…！　らめえしゅ…しゅ…！　らめえしゅ…しゅ…！　らめえしゅ…しゅ…！
らめえしゅ…しゅ…！　らめえしゅ…しゅ…！

お……♡……お……♡……
お……♡……お……♡……

あー子宮が完全に飛び出しちゃったね
でも今回はよく死ななかったね？

でもまあ……さすがに潮時かな
リリースもあと一回が限界って話だし
いい加減催促されてるしね

まだ価値のあるものにしたい
資金にしてしまおうかな



248.....♡♡
.....♡♡.....♡♡.....♡♡.....♡♡

あや——
またお話をのこすんだね

ニコニコ

アキ

アキ

ホントにアキはあんなにわがわがね ミレイちゃん
君が生んでくれた蟲は「れからも大事に育てていくからね

アキ



僕らは好事家の屋敷を襲撃した――

好事家の男を捕え、蟲を焼き払い
苗床として囿われていた女性たちを解放した
――だがそこにミレイユは居なかった

男を問い詰めると――男はあっさりミレイユの売却先を自状した
――その場所なら知っている

かつて僕らにドラゴンとフェニックスを合成した研究所――
そのうちの二つだ

気が付いたら走り出していた
みんなの制止する声も、聞えなかった

「マインは……アイン」

「君は……ミンティアか？ なぜ一人で来た？ 仲間と来ていれば」
「捕まる」
「こともなかったらどうした」

「マインはアイン……聞いているんだ……」

「どうするの……またアインが暴走して」

「おまえらに好き放題されるだけだったあの頃の僕とは違う……
今すぐ」
「君を全部焼き尽くす」
「アイン」

「それはやめておいた方が……見た」



「あ……」

「こんなところで力を使えば君の大切な妹も巻き込んでしまうぞ？
こんな有様だが彼女はまた生きています」

「……ああ」

「随分と痛めつけられたのだろうな。フェニックス——ウイータといったか——
の力はほとんど残っていなかった」

「そしてその瀕死のミレイユの命を繋ぎ止めていたフェニックスは我々が既に回収した」
「彼女はもう」の生命維持装置の中でしか生きていけないよ」

「彼女は貴重なフェニックスをその身に宿して生きて居られた貴重なサンプルだからな
標本として生命の維持は保障しよう」

「ホッ」

「——殺してくれ……」

「それはできないな——君もまた我々にとって貴重なサンプルだ」

「……それがよ」

「安心したまえ——昔のよしみだ」

「君も標本にしたら——妹の隣の容器で保存することにするよ」

「——……」



とあるクエストの折、不意打ちを受けたミレイユは
目を覚ますと見知らぬ場所に監禁されていた。

「アッ」

「一層……静か……」

「ハッ」

「アッ……ちゃん、やいと起きたら、おまひつ待ちくたひれたよ」

「はなしして!!」

「そんな……鳴ウーラの声が聞えない……魔力も」

「無駄無駄……闇特製の魔力弛緩剤を打ってるんだ
キンは一週間は普通のか弱い女の子なんだよ」

「ムッ」

「……静か……静か……」

「キンは懸賞金がかかっているからね
僕の目的はお金だよ」



「……ん」

ん！

「でも僕の目的は……」

「……何者……」

ビク

ビク

ビク

ん……

「早い者勝ちっていうのが
僕のルールなんだ
——どうしてアインちゃん
が起きるのを
待ってたと思うの？」

カ
キ
ル
ン

「ひっ……嘩……っ……
そんなのいらな……っ……
いやです……っ……やだっ……」

「あああああああああ!」

あがろ

「ぶひひっ!」一気に入ったねえ
いい声だよ!」
それが聞きかったんだあ!」

「あああああああ!」

「あああああああ!」

ガリィ
ガリィ
ガリィ
ガリィ

ガリィ
ガリィ
ガリィ
ガリィ

「レイユちゃんの処女穴キツチャギチ!
ほくれてないのが癖になる!
僕のイボチのホが潰されちゃうよ!」

「あああああ!」

「フニワックスの力を持つてる
ミレイユちゃんなら大丈夫だよね？」

「ひび………嫌………
お願ひします………
もう無理なんです………」

「さっっ！ それっ！ 入れっ！
入れっ！ 入れっ！ 入れっ！」

「おっ……おっ……
おあや……っ……いあ……
奥すんすんしないれえ！
赤ちゃんの部屋壊れちゃう……っ！」

「おらっ！ 入れっ！
入れ！」

「無理い！ 入らない……
入らないれす……っ！」



「……ふんふん……
か……」

イッパツ

「ん
根元まで入ると別格の気持ちよさー！
中がピクピク痙攣してイッちゃってっつた」

「……
……」

「……
……」

イッパツ

「ぶひっ
入っちゃったねえ
子宮の入り口がカリ
をつかんで離してくれないよ」

「……
……」

めろろ

イッパツ

イッパツ

ガッ

「あーっ もーっ
せつかく愛し合ってるのに
ミレイちゃんはずれないなあ♡」

あーっ

あーっ

びんびん

びんびん

びんびん

「あーっ びんびん」

「あーっ びんびん」

「仕方ないなあ
じゃあゆづくり抜くならね
力抜いて」

ズルル...

「あーっ
びんびん」





カ
ク
カ
ク
カ
ク

「えび
うさぎ

「うさぎ
うさぎ

カ
ク
カ
ク

「ふひっ酷い顔をすっ
せつかくの美少女が台無しだねえ」

カ
ク
カ
ク

カ
ク
カ
ク
カ
ク
カ
ク

カ
ク
カ
ク

カ
ク
カ
ク



「……………」
「……………」
「……………」



「ぶひっ
最高だったよミレイユちゃん♡
ちゃんと孕んでくれたかな？」



「……………」
「……………」
「……………」

「それにしても
こんな娘売っちゃうなんでもったいないなあ
ミレイユちゃんだって売られちゃうより
僕のペットになりたいよねえ」

アハカ...

「……………」

ギョギョ



エッ

おえッ!!

エッ

おえッ!!

エッ

「とりあえずもう一回しよう」

「なんれー! なんれまー
おわちんじゃないんれすか?」
「あまーっー あひるっー」
「あんっー」

「何言っつてさ
まだ始まったばかりだよ
ミレイユちゃんとも
気持ちよくなつてもう一回しよう」

「あひるっー
あんっー
あまーっー
あひるっー」

おえッ!!

おえッ!!

あーっ
びゅん

あーっ
びゅん

あーっ
びゅん

「さっぴろ
ザーメンお腹に溜まって
妊婦さんみたいになっちゃったね
すっかり中出しでイククセが付いちちゃったぜ」

ボコボコ

あーっ
びゅん

「さっぴろ
お尻をハカチでさすって
お尻をハカチでさすって
お尻をハカチでさすって
お尻をハカチでさすって」

びゅん

「さっぴろ
かわいい妹の頼みだから仕方ないね
おねだりしたらいいわ」

「さっぴろ
お尻をハカチでさすって
お尻をハカチでさすって
お尻をハカチでさすって
お尻をハカチでさすって」

「さっぴろ」



「ぐわんぐわん」
搾り取られる」
ほんとうに「ん」は僕のチ○ポが好きだなあ」

「おほほほ」
「おほほほ」
「おほほほ」
「おほほほ」
「おほほほ」
「おほほほ」

「おほほほ」
「おほほほ」
「おほほほ」
「おほほほ」
「おほほほ」
「おほほほ」

「おほほほ」
妹ザーメンタンクに申出し」

「おほほほ」
「おほほほ」
「おほほほ」
「おほほほ」
「おほほほ」
「おほほほ」

「おほほほ」
「おほほほ」
「おほほほ」
「おほほほ」
「おほほほ」

「おほほほ」
「おほほほ」
「おほほほ」
「おほほほ」
「おほほほ」

「たぐろ
寝ておいて」とは言ったが擦せとは言つてねえぞ。もうガバガバじゃねえか」

「お」

「お」

「まひろ
早く者勝ちでい言ったよ」

「これだからお前と仕事するのは嫌なんだよ
商品の価値を下げてしまつ」

「まひろ
だつたらあんたは
僕が何でいんの」

「お」

「残念だつたな。
今度の依頼主は「いつか生きてのりやいんをだよ
じゃなきゃ死ぬまで雇うか」

「お」

「お」

「さーんねん
じゃあまた別のキミと
相手してあげようか」

ミレイユ

人買いに売られたミレイユは
闇の勢力の下部組織である研究施設に
引き渡された。

「画面越しに失礼するよ
体調はどうかな？」

「あ、あなた一体
は、離してください——っ！」

これは驚いた
あれだけ痛めつけられていたにもかかわらず
体は健康そのもの
精神の動揺も正常値の範囲内に戻っている
大した回復力だ」

は、離して！！

「な、何を言ってる？」

「なに、私はしががない研究者でね。
君の中のフェニックスを回収するのが役目なのだ」

「そんなことやめてください——っ」
「そんなつ
こんなことやめてください——っ」

「これなら問題ないだろう
では始めてくれたまえ」

AGP 0. 000000000054674896776
GHK 0. 000000000076359437057
BBM 0. 000000778578804004040
KpL 0. 673693827878787584584

「や、やだっ
もう嫌です」

もう嫌です

のどろろ!

「なにこれ」
「ひっ
いい嫌!」

「なに苦しいのは一瞬だ
なるべく苦痛の無い方法を選んだ
だがそれでもこの『消毒』は必要なのでね」

「ふむ。回復はしていても誘拐屋に馴染られた
トラウマは残っているのか
だが君も生きてきたまま解剖されたくはないだろう?
これは最大限人道に配慮した方法なのだ
心苦しいが耐えてくれたまえ」

「あ、待つ」

AGP 0.000000000054674896778
GHK 0.000000000076359437687
BBM 0.000007785788040040040
KpL 0.6736938278787875845844



おっ

「だ、誰かー！だれがっこれ
止めてえくっださいいっ！っ！
たすっ！たすけてえ！」

おっ
おっ
おっ

「あぐーっ
ひぐろーっ
っ！」

「な、なんで誰も
返事してくれないのっ！
無理っもうむりいっ！っ！」

ガクガク

AGP 0. 000000000054674896778
GHK 0. 000000000076359437857
BBM 0. 000000778578804004046
KpL 0. 6736938278787875845844

—1時間後

ズ
ズ
ズ
ズ
ズ

「あえ？」

「ふむ。経過は良好のようだ
では次の段階に移ろう」

「う
ツツ
ツツ」

AGP 0. 000000000054674896776
GHK 0. 000000000076359437657
BBM 0. 000000778578804004040
KpL 0. 6736938278787875845844



アハハハ
アハハ

おやっ!
なんだ...

「いああ」

アハハハ

アハハハ

「うっ...おっ...」

AGP 0. 000000000054674896776
GHK 0. 000000000076359437657
BBM 0. 000000778578804004040
KpL 0. 673693827878787584584

「あががっ」

「おなかおなかおなかおなか破裂しちゃう……ツツ！」

「これは我々の開発した物でね魔物の卵だ。君にはその魔物を生んでもらうことになる」

「産みたくない……」

「た、卵なんてやらあ……うー産みたくないれすうだ、だれかあ助けでえ」

「なに。安心したまえ人体にはほぼ害はない

これは事前にマーキングした特殊な魔力のみを吸収して成長する仕組みになっていてね今回は君の中のフエニックスを吸収するよう設定してある」

AGP 0.000000000054674896778
GHK 0.000000000076359437657
BBM 0.000000778578804004040
KpL 0.673693827878787584584

「あとはそのポッドの中で出産を
繰り返してくれるだけでいい
なに、フェニックスの魔力が尽きるまでの辛抱だ
耐えてくれたまえ」

「ああ!!!」

「ああ!!!」

「ああ!!!」

「だって……フェニックス……」

「トク……」

「グググ……」

「……い……」

「……そんな……」

「……もう中でう……」

「……あ……」

「……やらあ……」

「……うみだぐ……」

「……でて……」

「ああ!!!」

AGP 0.000000000054674896778
Ghk 0.000000000076359437657
BBM 0.000007785788040040040
KpL 0.6736938278787875845849

「ふむ。どうやら成功のようだ

それでは引き続き続けてくれたまえ

おはようございます

ズリ...

「やあ

たしゆけつ... たしゆけれくらさい...
ぎぼち悪い...

おはよう

「う、生まれたのに... なんれっ!

生んだのにまた中に戻ろうとしてるっ...
あふれちゃうっ... はいらない...
もうはいらないっ...

ズク...

がわわ...

「あが

ぎぼちわるの... なんれえ
おなの... なんれえ

「ぎい...

「...の産...

ズク...